

「海は宝物! みんながひとつに!!」実施報告書

- 【趣 旨】 何らかの事情により一人親家庭となった子どもに、自分を見つめなおしたり、集団と関わったりする活動を通して、自分のよさや仲間の大切さに気付かせ、自分らしさを発揮できるようにする。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
- 【共 催】 社会福祉法人 広島県同胞援護財団高松ハイツ
- 【期 日】 平成24年8月26日(日)～28日(火)
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【対 象】 母子生活支援施設で生活している子ども
- 【参加者数】 21人 小学校1年(2), 小学校2年(1), 小学校3年(8), 小学校4年(2)
小学校5年(2), 小学校6年(2) 引率者(4)

【企画・運営のポイント】

- (1) 母子生活支援施設と連携し、子どもたちの実態を把握し、プログラムを作成した。
- ①事前に施設を訪問し、子どもたちの様子を実際に見るとともに、施設職員から普段の子どもたちの様子を聞き取り、当施設でできるプログラム紹介を行った。
 - ②施設職員が当施設を訪れ、下見・打ち合わせを行い当日に備えた。
- (2) 「食事」「掃除」「入浴」等の基本的な日常生活ができる力を育成するために、「基本的な生活習慣の確立」を基本としたプログラムを組み込んだ。
- ①掃除・食事・入浴の手引き(指示書)を提示し、生活に活かした。
 - ②野外炊事, 早起き, テント泊などの活動を取り入れるとともに, 荷物移動や荷物整理など, 自分でやり切らせるように仕組んだ。
- (3) 仲間と協力して活動を楽しむために, 当施設ならではの活動をプログラムに取り入れた。
- ①水泳・カヌー研修, ウミホテルの観察を行い, 江田島の海(自然)を満喫した。
 - ②休憩等にカプラを用意し, 仲間と協力しながら組み立てていった。

【活動の実際】

【第1日目】 8月26日(日)

- 11:40～12:10 開講式・オリエンテーション
12:10～12:30 宿泊室移動(シーツ受け取り)
12:40～13:20 昼食
13:30～14:20 カプラ
14:30～17:00 野外炊事
17:00～18:00 片付け
19:00～19:30 入浴
20:00～21:00 花火, ふりかえり(海洋科学室)
21:00～21:30 就寝準備
21:30～ 就寝



【第2日目】 8月27日（月）

- 5:50～ 6:00 起床・準備
- 6:00～ 6:40 海辺の散策（貝がら拾い）
- 6:55～ 7:20 朝のつどい
- 7:30～ 7:50 掃除（宿泊室、宿泊棟）
- 8:00～ 8:30 朝食
- 9:00～11:45 カヌー・水泳研修
- 12:00～12:30 昼食
- 12:40～14:00 カプラ
- 14:00～15:30 部屋片付け（掃除・布団片付け）
- 15:40～15:50 荷物とシーツ移動（海洋科学室）
- 15:55～16:50 水晶山登山
- 17:00～17:15 タベのつどい（代表挨拶）
- 17:30～18:00 夕食
- 18:00～18:20 テントへ移動
- 18:30～19:30 休憩
- 19:30～20:00 入浴
- 20:15～21:15 ウミホテル観察・ふりかえり
- 21:15～21:40 就寝準備
- 21:40 就寝



【第3日目】 8月28日（火）

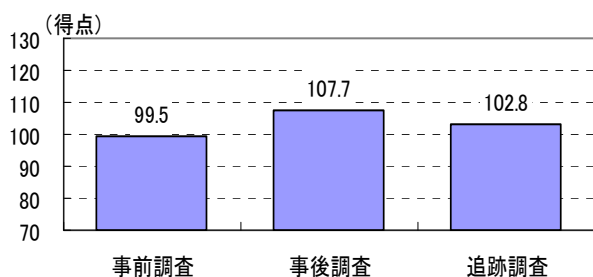
- 6:40 起床・準備
- 6:55～ 7:20 朝のつどい（旗係・代表挨拶）
- 7:20～ 7:50 掃除（宿泊室・宿泊棟）
- 7:50～ 8:20 朝食
- 8:30～ 9:30 掃除・シーツ及びテント関係備品返却・荷物移動
- 9:40～11:30 ザリガニ釣り研修
- 12:00～12:30 昼食
- 12:30～13:00 休憩
- 13:00～13:30 ふりかえり・事後アンケート（I K R 評定用紙）実施
- 13:30～14:00 閉講式



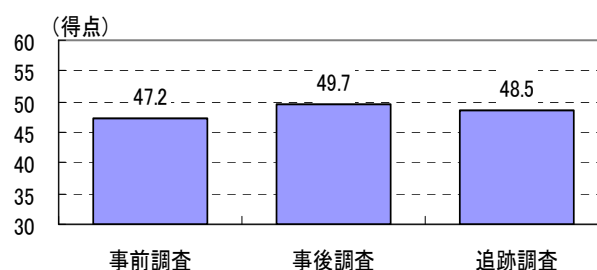
【成果】

(1) 『指示書』により、「食事」「掃除」「入浴」などの自分の生活面を見直させることや、「野外炊事」を自分たちで準備し、片づけまで行ったこと、また、「早起き」や「登山」「カヌー・水泳研修」など自然の中で、普段できない活動にチャレンジすることが自信につながり、I K R 評定用紙による分析結果からも分かるように、生きる力が向上したと考えられる。

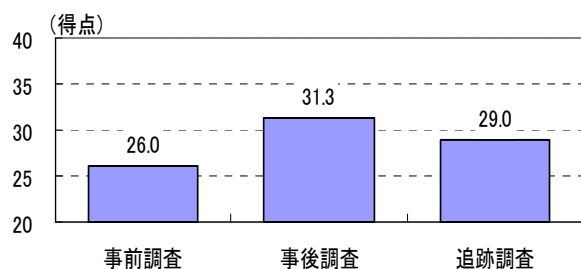
『I K R 評定用紙（簡易版）』参加者アンケート調査より
「生きる力」の変容



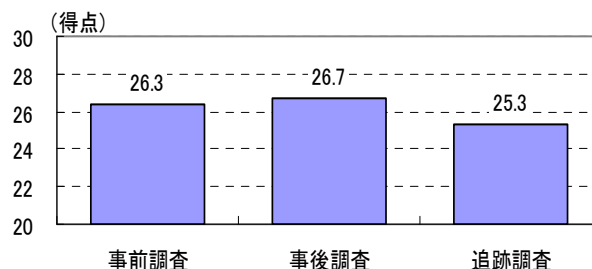
「心理的社会的能力」の変容



「徳育的能力」の変容



「身体的能力」の変容



(2) 参加者の感想に、「江田島でしかできない私たちの思い出ができました。」「家に帰ったら、お母さんに2泊3日で何があったか、どんなことをしたかをたくさん話そうと思います。」「あと2日で学校が始まるので、がんばりたいです。」などがあり、仲間といっしょにいろいろな活動をやりきった達成感を味わうことができ、それを皆の前で伝え、これからは活かそうとする姿が見られた。

(3) 母子生活支援施設の職員から、「普段見られない子どもたちのがんばりをいろいろな体験活動を行うなかで見ることができ、大変有意義なプログラムだった。」「ぜひ、来年度も、施設としての活動（行事）として位置づけていきたい。」との感想があり、このような体験活動を施設の職員が継続して行うためのよい機会とすることができた。

【今後の課題】

- 低学年の子どもたちの参加が多いこの事業では、ボランティアの参加が有効である。本年度は、当交流の家のインターンシップの学生が活動の補助を行ったが、人数も十分ではなかった。したがって、来年度は、メール等で情報発信を行い、より多くの法人ボランティア等を募り、配置することで活動の支援を十分に行いたい。
- 4・5・6年生が対象にI K R 評定用紙によるアンケート分析を行った。より精度を高めるために1・2・3年生へのアンケートを他施設のものを参考にしながら独自に作成し、実施していくことが望ましい。
- より事業の成果を高いものとするために、施設と連携しながら家庭教育支援の視点を取り入れたプログラム等を構成する必要がある。